

第6日

平成25年6月18日（火）

午前10時零分開会

○議長（手嶋源五君） おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は20名で会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位はお手元に配付のとおりであります。

申し合わせにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含めて60分以内となっております。御了承願います。

それでは、最初に6番中島秀樹議員の質問を許可します。6番中島秀樹議員。

（6番中島秀樹君登壇）

○6番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。朝早くから傍聴ありがとうございます。6番議員、中島秀樹でございます。

先日、市民の方と話しておりましたら、こういうことを言われました。朝倉市の市議会のやりとりは、通告書を見てれば議員がどういうことを言うか、執行部がどういうことを答えるか、大体想像ができる。わざわざ聞きに行く必要はないというふうに言われました。我々は変わらなければなりません。私自身も賞味期限切れとならないように、きょう一生懸命頑張りたいと思います。

通告書に従い、質問席より質問させていただきます。

（6番中島秀樹君降壇）

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） では、通告書に従い質問させていただきます。

まず、朝農跡地活用についてを質問させていただきます。

先日の全員協議会、これは5月17日に開かれたんですが、これにつきまして、朝農跡地活用についてということで執行部のほうから報告がございました。これは全員協議会という場でしたので、市民の皆様にはわかりづらいといいますか、なかなかわからない会議です。議場で再度、私が質問させていただきたいというふうに思っております。

では、まず1番目に、朝農の問題につきましては、平成19年の11月に寄附採納の申し入れがありまして、約5年以上がもうたとうとしております。そういった中で、やっと具体的なものが出てまいりました。まず1番目に、庁内推進委員会を設置するということが報告がありましたけれども、これは庁内検討委員会が以前もあったと思います。そして市民の方にはまた検討するのかというようなことが言われました。なぜ改めて庁内推進委員会を設置するのか、これをお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田浩君） 庁内に部長以上、副市長をトップといたします、議会事務局長を除きます…。

○議長（手嶋源五君） 課長、マイク。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 庁内に今回、庁内の検討委員会を設置いたしました、その目的は、活用の計画をするというよりも、実施に向けてその懸案事項等を一つ一つ解決していきたいと、そういう実現に向けての検討を深めたいという意味で設置したものでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） メンバーは部長職以上なんですか、そして部長職以上で、結局、トップが集まって強力で推進していくと、そういう考え方でよろしいでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） メンバーにつきましては部長以上、議会事務局長は除きますけれども、部長以上でございまして、副市長をトップといたします。それから教育長も入ります。副市長が委員会の委員長でございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 片山副市長は、今回、朝倉市にお見えいただきまして、この問題を陣頭指揮をとられて解決していくというふうなことになると思います。そういった中で、私はやはりこれの問題の解決については時間がかかっているなというふうに感じております。そういった中で、副市長はこの問題、朝農の跡地活用について、この職務につかれてどうという印象を持ってあるか、それをまずお聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 朝倉農業高校跡地の活用につきましては、市として最重要課題の1つであると伺っておりましたので、着任いたしまして翌日に早速現地を視察いたしました。印象としましては、広大な敷地の中にイチヨウ並木を中心とした農地や植物園等に加えまして、既存の施設、建物、市の活性化につながる大きなポテンシャルを秘めているのではないかと感じたところでございました。

朝農対策についての認識をとのことでございますが、大きくはやはり平成24年の2月に策定いたしました朝倉農業高等学校跡地活用に係る基本方針、これに沿って取り組みを進めていく必要があると認識しております。現段階といたしましては、4月の全員協議会で報告をいたしました朝農跡地の全体構想イメージ、これを具体化するための検討を早期に進めていく必要があると、これが喫緊の課題であるというふうに捉えております。

私自身、おっしゃいましたように、跡地活用の庁内推進委員会、この委員長という大変責任のある立場となりました。エリアごとの具体の活用策でありますとか、アクセス道路、排水、こういった各部が関係します諸課題、こういったものの解決策を探りつつ、真摯に

取り組んでいきたいというふうに考えております。そのためには関係諸団体、あるいは地元住民の方々との協議、調整、これを慎重かつ丁寧に行っていく必要があると考えておりますので御理解を賜りたいと思います。その進みぐあい、経過などにつきましては、随時議会のほうへも御報告をしてまいります。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 今、副市長のお言葉ですと、やはり基本計画に従って、前の計画をそのまま引き継いでいって職務に当たっていくというふうに私はとったんですが、そうであれば、ある程度、もう新しいものはつくらなくてもいいですので、事務的なこと、それからいろんな障害を、要するにばっさばっさと片づけていって進めていけばいいんじゃないかなというふうに思っております。それと広大な敷地があるということで非常にポテンシャルはあると、非常に魅力があるということ、これは私も同感です。

ただ、この問題は副市長としましては、やはり私は残念ながら行政の経験がないものですから、難しいというふうにお考えでしょうか。私は難しいのは難しいんだろうというふうに思います。ただ、余りにも時間がかかりすぎるので、それはなぜなんだろうというのが正直な感想です。この点については、とにかくやっつけ仕事で条件をすぐクリアしていけばいいんじゃないかというふうに考えるんですが、そこら辺はどんなふうにお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 時間がかかりすぎてるという御指摘でございますけども、今後の推進委員会といたしましては、先ほど申し上げましたように、ゾーニングをこの間、先日の全員協議会でお示ししましたので、そのエリアごとの具体的な活用策、それですとかアクセス道路、排水の問題、こういったものをそれぞれ具体的に解決を図っていきたいと思っております。そういったことで抽象的ではなく、具体的な課題の解決、これに取り組んでいく所存でございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 今、ゾーニングという言葉が出ました。我々も資料をいただきまして、今までは楢円で、大ざっぱな区割りだったのが、きちっともう道ごとに区画の境界線もきちっと決められまして、計画ゾーン図というのが出ました。そして、今回、この議会で補正予算で700万円ということ跡地活用事業ということで、委託料ということで700万円が上がっております。これについては後で審査をさせていただくんですが、これはこの700万円というのはどういったものに使うお金なんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 4月の全員協議会でお示ししましたものはゾーニングに

よる全体構想であるということでございます。今回の業務につきましては、この全体の構想をもとにいたしまして、実現可能な跡地利用について検討を行います。継続的な検討を行うわけでございますけれども、その検討の経過や結果をまとめた報告書、概算事業費、全体基本計画の平面図、主な建築施設の配置図、平面図、全体のイメージスケッチ等をつくりたいと、そのために業務の専門的な知見が必要でございますので、業務を委託するというものでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私はコンサルか何かで計画か何かを再度練り直すのかなというふうに思ってたんですが、今、課長のお話だと、実務的なことを委託するというふうにとったんですが、実務的な委託でやはり700万円もかかるものなんですか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 金額の問題だと思いますけども、この業務に対していろんな中身が入っております。ただ単に構想をつくるだけじゃなくて、先ほど議員がおっしゃった課題解決、これも含んでますし、今までできなかったもの、私たちが考えてきたんですけども、専門性の必要があるということがわかってきました。というのは、例えば1つ例を挙げると農業の農地があります、これの利活用についてももう少し専門的に分析しないと、その範囲内に入れるかどうか難しいということがありますので、これも専門のアドバイスを受ける必要があると、いろんなパターンで専門的なアドバイスを受ける必要があるということです。課題はまだたくさんあると思います。これを一つ一つ解決していかないと前へ進まないと思いますので、その部分でこういう金額になったというふうに認識しております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 専門性、要するに専門家の方に問題解決のために委託すると、そういったものにいろいろお金がかかる、そして問題はたくさんあるからお金がかかるんだと、こういう理解でよろしいでしょうか。わかりました。

そしたらゾーニングという言葉が出まして、この中でゾーンが、3つのエリアを私ども提示といいますか、説明を受けました。1つがスポーツエリア、2つ目が農と憩いのエリア、そして3つ目が農業団体等誘致エリアということで説明を受けております。そういった中で、全協の説明で筑前あさくら農業協同組合との覚書を交わしたいというような説明がございました。今月にJAのほうも総会があるからということで、非常にJAに対して執行部のほうとしては配慮をして、なるべく静かにこの問題を解決していきたいというような意思を私は感じました。もう6月もきょうが18日ですので、営業日にしましたらば、もう10日を切ってると思いますので、そろそろ明らかにしていただいてもいいんじゃないのかなというふうに思っております。JAさんの総会が開かれたかどうかというのはよく

わからないんですけども、でも、もうそろそろ6月もう半ばを過ぎましたので、具体的な情報を出していただいてもいいんじゃないかなというふうに思っております。

そういった中で、JAあさくらさんと覚書を交わすということであれば、JAあさくらさんとパートナーになって何かをやりたいということだというふうに私は考えます。そこでJAさんと一体何をなさるつもりなのかお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 市とJA、農協さん、筑前あさくら農協さんですが、共通の目標を持って朝農跡地活用事業に取り組んでまいりたいというのが基本的な考え方でございます。市といたしましては、基本方針にありますように農業の振興活性化を目指し、朝農跡地を加工、流通、販売戦略の拠点にしたいというふうに考えております。また6次産業化に向けた取り組みを考えておるところでございます。JA筑前あさくらに対しましては、これらの事業内容の実現化に向けた要請を行いました。JAとは今後も引き続き具体化に向け協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） JAあさくらさんは福岡県下でも有力な農協さんです、そういった意味で、私は力をお持ちだというふうに思っておりますし、また甘木・朝倉地区における農協の存在感というのは、これは物すごく大きなものがあると思いますので、パートナーとしては申し分がないというふうに思っております。

ただ、共通目標として農業の活性化、それから拠点づくり、これはよくわかります。でも余りにも漠然として、具体的に何をしたいのかというのがよく見えてこないんですが、もう1度、お尋ねします。それは本当にそういう曖昧な形で覚書というのを交わすのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 基本的に覚書というもので覚書そのものを取り交わすんじゃなくて、覚書に例になって、そういうものを取り交わすということで全協のほうはお話したと思います。といいますのは、まだ基本的に締結するに至っておりません、まだ詰めるところはたくさんあります、そういう意味でそういうふうにお話しさせていただいたんですけども、内容については具体的にお話はさせてもらってます、そうしないと先、進めませんから。ところが、JAさんも今度の総会の中で全て明らかにするというふうには聞いておりません、まだ部会とかいろんな組合の意見が取りまとめができてないようですので、そこがさきだということです。私たちもそうだと思います、組合員さんの御理解がないと、そこが大事にするのは私たちも同じことです、そこをさきにするということです、そこは事務レベルでは話してますけども、覚書のような例の中にはそれは含んでおりません。もう簡単な、覚書はもともと法的根拠があるものではございませんから、簡単に進出

するという、今後、協議詰めていくところで簡単なものにさせてもらってます。それをもとに、今後また具体的に詰めていくということになると思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 覚書は法的な効力もないから、仮に農協さんと覚書を交わしても、それがうまく、不幸にもいかななくても、そのところは問題がないというようなお考えもあるのかなというふうに思います。ただ、私は市と農協という2大、大きな団体が覚書を交わすのであれば、やはり失敗なく交わしていただきたいというふうに思っております。議会としてもそれについていいのか悪いのか、やはり助言をしていきたいというふうに思っております。

そういった中で、なぜ農協さんを選んだかというのがわからないんです。先ほど言いましたように、資質は私は十分だと思うし、存在感も十分だと思います。ただ、何がやりたくて農協さんを選んだのか、そして私たちは、もしこういうことがやりたいということがわかってたら、それだったらこういう団体もあるんじゃないか、こういう団体もあるんじゃないかというような検証もすべきではないかなというふうに思っております。何がやりたいのかはよく明らかにできないけども、農協とは基本的な覚書を結ぶ、そういうふうにおっしゃるんですけども、議会としましては、本当にそれでいいのというふうに思います。そのところをもう少し明らかにしていただかないと、いいも悪いも判断のつけようがないんですが、では、別の尋ね方をいたします、なぜ農協さんを選ばれたんでしょうか、それをお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 前段で覚書のことについて議員が言われましたことについて、少し認識が違うと思いますので、その辺をちょっとはっきりしたいと思います。覚書そのものに対して、私たちはこうでなければならぬというものはありません。といたしますのは、具体的に法的根拠のある協定というのはずっと先になると思います、まだ煮詰めることたくさんありますから、それまでに何もしなくていいのかということから、言葉だけではなくて、何か書類で取り交わしておったほうがいだろうという認識で申し込んだものです。相手のJAさんもそれで了解いただきましたので、そういう意味で、ただ単に覚書が最初にあったわけではございません、そこをちょっと誤解していただきたくないと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） JA筑前あさくらとした理由という御質問でございました。このJAに決まるまでの経緯といいますものは、まず基本方針を理解し、跡地活用について民間を含めたいろいろな方から御意見をいただくことから始めたということがございます。JAと協議を始めたのは平成24年の6月からでございます。その協議を進める中で、パートナーと決める上で大切だと思いましたが、JAには市の朝農跡地活用に係

る基本方針についてきちんと理解をいただいたということがございます。それから、JAの構想がございすが、JAの構想というものが市の方針に合致するというものであり、実現の可能性が高いというふうに判断をしております。また、市民に身近な団体である。それから、公益性、運営規模、経営の安定など信頼性が高いということもあると思っております。これらを総合的に判断して協議を行ってきたわけでございますけれども、今、申しましたことがJAとした理由でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） これはちょっとJAさんに対して失礼に当たるかもしれませんので、お答えできればお答えいただきたいんですけども、ほかの団体さんに当たったり、それから接触と申しますか、そういったことはございますでしょうか。私は農業の団体であれば民間の団体でもあるのではないかなというふうに思ってるんですが、それはいかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 先ほど申しましたように、民間を含めたいろいろな方から御意見をいただいたという経過がございますけれども、最初に協議を始めたといえますものがJAであったと、24年6月ですから、ちょうど1年前になるということがございますので、まだこのJAさんにつきましても私どもの考えを理解していただくかどうかもわからない。それからJAさんとしても、こういう朝農活用に対して取り組んでいかれるかどうかもわからないという状況の中で接触を始めたわけがございますので、当初はJAさんであったということではございますけれども、さまざまな民間を含めた中から24年6月に協議を開始したということになります。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 済みません、誤解があるといけませんので、基本的にJAありきではございません。先ほど言いましたように、民間団体といろんな話もしまして協議もしました。並行してJAさんのほうにも話を持っていったということで御理解いただきたいと思えます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 最初JAさんありきではないということですね、わかりました。

そうであれば、済みません、またちょっと堂々めぐりになってしまうんですが、そうなると、やはり、では市としてあそこで農のエリアでは何をしたいというふうにお考えなんでしょうか、拠点づくりということであれば、私は何か販売所とか、そういったものをつくるのかなというようなことをちょっと勝手に考えてしまうんですが、市としてはどういったコンセプトをお持ちなんでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 市としての考え方といたしましては、24年の2月に策定

いたしました基本方針にあるとおりでございます。その中にありますのは、農林業関係団体誘導による産業振興活性化ということでございますので、考え方といたしましては、農林業のブランド展開、それから地産地消を基本にする、それから加工、流通、販売まで生産者が総合的に農林業を展開できる拠点を整備するということでございますので、基本方針の考え方にあるものが市の考え方でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 課長の今のお答えであれば、ブランド展開とか拠点づくりということで、まだ具体的なものは決まってないけれども、今から農協さんと一緒にパートナーとして考えていくと、そういうふうに私は理解いたしますが、それでよろしいでしょうか。今の時点ではまだ具体的なものはできてないんだと、ただパートナーとして農協を選んで、農協さんと今からそういったものをつくり上げていくんだと、そういうふうに理解いたしますが、それでよろしいでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 農協さんでも内部的にはいろいろ考えてあると思っております。ただ、それが機関決定には至ってないし、公表できるものではないということでございます。基本的には中島議員のおっしゃるとおりでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） もう1つ、お尋ねしたいことがございます。時間が非常にこの問題の解決についてはかかっております。やはり相手のあることですので、交渉には非常に神経を使うということはよくわかります、ボタンのかけ違いがあればうまくいくものもうまくいかなってしまうというふうに考えております。そういった中で、これから慎重に事を進めていかないといけないんですけれども、そういった中で解決すべき課題、乗り越えないといけないハードルというのは、まず明らかにできるのであれば教えていただきたいんですが、農協さんとの交渉の中で何があるのか、それから今度は農協さんとの誘致の問題は別にして、ハードの面でも結構ですので、そういったもので解決しないといけない問題が何があるのか、これを教えていただきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） ハードルといいますか、課題といたしましては、やはり朝農全体のインフラの関係でございます。排水のことはもう以前からずっと申しておりましたし、道路の整備についてもしなければならぬ。そういったインフラをきちんと整備するというのが第1段目のクリアしなければならないハードルかなというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 済みません、農協さんとの交渉の中で明らかにできるのであれば、ここら辺のところは解決しないといけないというものがありましたら教えてください。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） J Aさんのお話の中では、かなり詰めてきましたけども、まだJ Aさんとしても外に出してるものはございませんので、それに応じて私たちも共有しながら市民の方に話すべき必要があると思います。まず、やっぱり私たちも一緒ですけども、関係者を大事にしたい、関係者の協議なり説明を大事にしたいというのは同じですから、その気持ちは十分私たちもわかりますので、そこら辺は大切だと私たちは思っています。先ほど課長のほうがインフラ整備を申しましたけども、同じように関係者がございませぬ、そののやっぱり説明なり同意というのがさきですので、その辺をはっきり理解いただきながら進めることが大切と私たちは思っていますので、同じことだというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私もやはり農協さんとの交渉が、もう覚書を交わすところまで来ておりますので、やはりぜひとも成功していただきたいというふうに思っておりますし、また私がこの質問で大変農協さんに対して失礼なことを申し上げて、その話が流れてしまったというようなことにならないように気は遣っているつもりでございます。ただ、やはり市民の方から見ると非常にわかりづらいという部分もございませぬので、そこら辺のところは教えていただける範囲で明らかにしていただきたいというふうに考えております。

もう質問の時間が30分たとうとしておりますので、今、聞きましたところによりますと、インフラの整備、排水の整備なんかというのは、非常に私は時間がかかるものではないかなというふうに思っております。そういった中で、結果としてはもう時間が過ぎてしまったんですけども、これから先も相当な時間が私にかかるんじゃないかなというふうに思っております。

そういった中で、最後に市長にお尋ねしたいと思っております。市長、もう任期があと1年弱というふうになりましたが、そういった中でこの問題解決につきましては、市長の任期の中ではとりあえずは難しいというふうに私は理解いたしました。そういった中で、市長はどのようにこの問題を捉えて最終的に着地させようとしてるのか、お考えをお尋ねしたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 朝倉農業高校の跡地の活用については、大変御心配をおかけしております。今、中島議員のほうから随分時間がかかっておるといふような御指摘もございました。あれだけの広大な土地を活用するのに、5年という時間が、時間がかかっておるといふのか、そうでもないのかといふのはいろいろな考え方があるだろうと思っております。しかし、いずれにいたしましても、多くの市民の皆さん方が期待をされておるといふこともまた事実でありますので、そういうことを頭に入れながら、残念ながら私も今年度1年で一応の任期になりますけれども、少なくとも今議会で補正で700万円の補正をお願いをしております。

ます。それをして、ある程度もっと具体的に目に見える形で市民の皆さん方にお示しできる、そこまでは私の任期の中できちっとやっておきたいというふうに考えております。

それと、JAの話が出てまいりました。先ほど部長が答弁しますようにJAありきという話ではございません。いろんな民間の方からのいろんな話もございました。そういった中で、最終的にJAという形になったわけですが、それはなぜかという、この間、去年から、ずっとJAと色々な交渉しておりますけど、30回以上、事務レベルでJAとのずっと話を担当の職員がしてきておるわけです。その中で、もちろんいろんな状況もありますけども、じゃあ具体的にどういう形のものをあそこの場所に農業、市としてはJAにこういうものをお願いしたいという話もこの間やってきてるわけです。その中で、JAとしてもある程度のそこについては御理解をいただいたと、100%そうなるかどうかは別ですよ、しかし、ある程度の御理解いただいたということの中で、それはJAでお願いしようという形になっておるわけですから、もちろん今からもきちっとJAとは話をしながら、よりいいものにしていかなきゃならん。

それともう1つ、危惧しますのは、JAは恐らくこの地域のほとんどの農家の方が組合員であろうかと。しかし、問題は6次産業とか言いますと、JAだけじゃなくて、じゃあ例えばJAの部会以外の方、この方たちをどうするかということも市としては考えていかなきゃならん話なんです。ですから、そこらあたりも今後、具体的なことで詰めていながら、よりいいものをつくっていききたいというふうに考えておりますのでよろしく願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 農協さんをパートナーに選びまして、朝倉市と農協が手を組んで朝農の活用をしていく、これは朝倉市の宝になるものだというふうに私は信じております。お互いの強みを生かしていただきまして、朝倉農業高校跡地は時間がかかったけれども本当にいいものができたというふうに市民から言っていただけるように、市民の期待を超えるようなものを、やはり時間がかかってしまいましたが、そういったもので結果を出していただきますようお願いいたしまして、この問題の質問を終わりたいというふうに思います。

では、次の質問に移りたいというふうに思います。朝倉市の成長戦略についてということで質問をさせていただきます。

私がこの質問をしようかなというふうに思ったのは、朝倉市のやはり人口は非常に減っていくというのを私は心配しております。日本の人口が減っていくから、朝倉市の人口も減るのも当たり前といえば当たり前なんですけど、例えば私の地元の金川小学校、入学式なんかを見ますと、大体1クラスが15人ぐらいになっております。私のころが1クラス40人ぐらいでした。そしたら、私が高齢者になるころ、この15人が私を支えてくれるんだなというように感じております。そういった中で、やはり社会の仕組みとして非常にやは

り人口がふえないと、本当にこの少人数で地域のコミュニティとかを支えていけるんだろうかというふうに変は危惧をしております。

そういった中で、人口が減りつつある日本の中で人口がふえてるところといいますと、東京、大阪、名古屋の3大都市圏、そして福岡がその中でも人口が唯一ふえてるところなんです。5月に150万人を超えたというようなニュースを皆さんごらんになったというふうに思っております。そういった意味で、朝倉市はインフラもそろってる、それから立地条件も決して私は悪くないというふうに思っております。福岡市の近隣の都市、志免町とか那珂川町とか、そういうところは非常に高い人口の成長、増加率を示しております。そういった中で、朝倉市も努力をすれば、私は人口をふやすことができるんじゃないかなというふうに思っております。

なぜ人口をふやさないといけないかといいますと、先ほど申し上げましたように、我々、団塊の世代といいますか、が高齢者になりましたらば、どうしてもやはり医療や福祉面の需要がふえてお金がかかるというふうに思っております。そして若者が減っていくということは、税金を払う能力のある生産年齢人口がやはり減少して、やはり税収が少なくなっていくというような図式で、非常に地域を維持するのが私は難しいんじゃないかなというふうに思っております。

そういった中で、朝倉市がこれから何で人口をふやしていくのか、それから魅力を発信していくのか、そこのところは真剣に考えていかないと、先ほどの私の金川という小さなコミュニティ、自分の地元を皆さん考えられたらわかると思うんですけども、そんな人数でずっと維持できていくはずが私はないというふうに思っております。そういった意味では、移住者争奪戦というのに朝倉市も参加すべきではないかなというふうに考えております。そういったとるんだという攻めの姿勢に転じることによって初めて維持ができるんじゃないかなというふうに考えているんですが、朝倉市はこれからどうやってコミュニティを維持していくべきか。済みません、ちょっと前講釈が長くなったようなんですが、まず副市長に私、お尋ねしたいと思います。副市長、朝倉市に来られたばかりですが、朝倉市の印象とか、それから朝倉市のポテンシャル、これについてはどういうふうにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 朝倉市の魅力につきまして、私、感じますところ申し上げますと、この4月1日に着任をいたしまして、会議ですとか行事、そういったもので市内各地を訪問させていただいております。実際に広大な面積で、山、川、そして水の清らかさ、そういったものを感じておりまして、最近は特に高木地区を訪問しまして、そこであんなにたくさんの蛍を見たのは初めてでございました。また市民の方も地域のコミュニティの方、いろんな団体の方、会う人会う人から、ふなれな私にも温かい言葉をかけていただいております。そういった意味で、非常におもてなし、ホスピタリティーにあふれた土地柄

だというふうに感じております。

また、地域資源という観点から申し上げますと、朝倉市は合併してますますそういった地域資源が豊富になってきているというふうに感じております。歴史面では秋月、卑弥呼伝説ですとか、三連水車、それから山田堰、そしてユニークなイベントとしましても甘木盆俄ですとか、食べ物の面でも葛、水前寺ノリ、柿など、なかなかほかの地域では見られないような魅力、特に3つのインターチェンジですとか、あるいは3つ目のダムも建設されるということで、他の市町村にはなかなかないような魅力、優位な特徴を有しているというふうに感じてるところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私が聞くところによりますと、副市長は大牟田の御出身というふうに聞いたんですが、私が思ってる大牟田市というイメージは、炭坑の三井三池炭坑で栄えた大きな都市というイメージだったんですが、調べてみますと、人口21万人あったのが、今、12万人ということで、人口の流出がとまらないと。そして何か過疎の指定を受けようとしてるというふうに聞いております。大都市大牟田ですらそういう状態であれば、朝倉市もぼやぼやしていれば同じ轍を踏むのではないかなというふうに心配しております。

そういった中で、私はやはり朝倉市がこれから生き残っていくために、争奪戦に参戦するために、やはり具体的な政策を打っていかないといけないというふうに感じております。今、副市長の答弁であれば、私は地域資源を生かして交流人口をふやすというような方式、観光資源、観光あたりを重点を置くべきだというふうに私はとったんですが、もう1度、副市長お尋ねします、具体的にどういう施策を打つべきというふうに副市長はお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 議員御指摘のとおり、移住者争奪戦といいましょうか、そういった攻めの姿勢が必要だということでございました。私も同感でございまして、まずはそういったいわゆる定住人口をふやすということは究極の目的でありましようし、また、その前段としましては、やはりいわゆる交流人口、これをふやしていくことが課題ではないかというふうに考えてます。そのためには、まずは1つは魅力を発信し続けていくこと、これが不可欠であるというふうに考えております。

私、これまで県で地域振興の業務に携わってまいりまして、その中で思うことを交えながらちょっと述べさせていただきたいと思っております。今、申し上げました、まずは魅力を発信し続けるという点でいきますと、現在も先ほど言いましたように、この朝倉市内にはさまざまな地域資源、魅力ある地域資源がございますが、やはり加えまして、例えば朝倉宝探しコンテストで新たな魅力を発掘したり、あるいは来年のNHKの大河ドラマ、これにあやかって、黒田家ゆかりの地であること、こういったことのPRもタイムリーではない

かなというふうに考えております。

また、先ほどのお話がありましたように、福岡大都市圏でございます。こういった福岡大都市圏をターゲットということで考えますと、やはり太宰府ですとか柳川、こういったところがライバル多うございます。そういった観点で、なかなか単独の市町村では情報発信、どうしても限りがあるという場合もございます。こういったものに対しましては、やはり今、県と共同で実施しております広域連携プロジェクト、こういったものも積極的に活用していきたいと思っております。中身を申し上げますと、歴史探訪ツアー、こういったモニターツアーでは朝倉市の百人一首のトピックを盛り込んだり、あるいはその写真展、こういったものを福岡で開催したりしております。

また、単に観光地に行って、見て、食べて、帰るということではなくて、朝倉型のグリーンツーリズム、あるいは自然体験プロジェクト、こういったものでいわゆる体験物ですとか、滞在型、宿泊型で地元との触れ合い、交流、こういったものを経験してもらって、リピーターという形でまた来てみようとか、あるいは、ひいては将来移り住んでみようとか、そういった動きに結びついていけばいいのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私、いろいろこの一般質問に関しまして、資料、目を通しておりましたら、皆様にぜひとも御紹介したいのがございます。これは6月8日の「ダイヤモンド」なんですけども、この中に財政貧乏度ランキング、2040年に貧乏になる市町村という自治体ということでランキングが出ております。その中で朝倉市がやはり名前が出てるんです。福岡県の中では出ておりますのが直方市、朝倉市はちょうど100番ぐらいなんですけど、直方市が30位、その次が福岡県では朝倉市で100位で出ております。これ150位までしか載ってないんですけども、やはりこれを見て、ちょっと私はやっぱり載ってると思わなかったもんですからびっくりいたしました。この雑誌が正しいとは私ほうのみにするつもりはありません。ただ、このランキングをするに当たりまして根拠となってる、なぜ朝倉市が数字が悪いのかといいますと、生産年齢人口が少ないからなんです。2040年度に生産年齢人口が減るから財政的に苦しくなる、だから貧乏になると、そういう考え、見立てのもとにこのランキングが出てるんです。この中で紹介されておりますのは、例えば福岡県的那珂川町、これは今、人口の増加率が8%ぐらいあります。でも、町内で住宅を取得したところは5年間で最大100万円の固定資産税を町が補助すると、そういった政策を打ち出してあります。だから私もやはりもう少し具体的に落とし込んだ政策をしていかないと、地域間競争に勝ち残れないんじゃないかなというふうに私は感じております。

ただ、副市長のほうは今、御説明ありましたように、やはり交流人口ふやして観光をやっていくんだということであれば、やはりまずは来てもらわないことには住んでもらえませんので、来てもらうということも、それはやはり知っていただくということは大事でし

よう。

では、お尋ねします。観光のほう、担当課としましては、そういった危機感を持って本
当にやっていますでしょうか、それを担当課のほうにお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 先ほどより副市長のほうからいろいろ観光についての交
流人口の増大に向けて、まずは来てもらうということですが、所管課としまして、
我々は福岡都市圏の250万人の人口をぜひこの朝倉市に取り込みたいと、こういうことで
幸いにしてうちあたりの新聞というのが都市圏に該当しますもんですから、週末ともなれ
ば、いろんな情報を都市圏の方は待っております、ここを旬の情報を出していくと。この
ことに対して当然、うちには直売所、道の駅がございます。年間にレジ通過だけでも108
万人と、倍にすれば200万人の方がお見えでございます。ここからの放射線状の交流人口
の増大というのは一番大事なことだと認識しております。ですから、もちろん観光協会と
の連携もございましょうが、直売所、道の駅についての情報発信についても、うちは連携
をとって進めているところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私はやはり外貨獲得というのは大事だと思うんですけども、でも、
この記事を読んだ限りでは、やはり課長には朝倉市の運命がかかっているとんでも過言で
はないぐらい、それくらいの危機感を持って朝倉市に人を呼び込んでいただきたいという
ふうに思っております。そして、まずは朝倉市の魅力に触れていただいて、知ってもらわ
ないことには住んでいただくということは多分あり得ませんので、そういった意味では一
生懸命やっていただきたいというふうに思っております。

今、情報発信という言葉が出ましたが、情報発信って、では朝倉市として何をなさって
るんでしょうか、再度お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 情報発信としましては、行政経営課の中の広報戦略とい
う形もございましょうが、あくまでも観光に特化したところの情報発信については、市の
新着情報のホームページの中に、例えば昨日であれば三連水車が稼働を始めましたよ、あ
るいは蛍が今、見ごろでございますとか、いろんな関係で、まずはメディア、特にメディ
ア人口がそんなに多いのかと言われれば、それについてはちょっとあるかもしれませんが、
まずロコミ、そしてメディアということを最重要視して情報発信をしているところで
ございます。

それからマスコミ、当然これはラジオ、テレビも含んだところで、一方的に情報を流す、
ファクスを流すのではなくて、過去に知り得たディレクター、もしくはプロデューサー等
と連携をとりながら、チョイスするのは先方ですから、とにかく情報を出さないことには

向こうは番組、あるいは構成をしませんもんですから、そういう取り組みを日々心がけております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） とにかく若い人というのは情報に非常に敏感ですので、とにかく朝倉市のことをやはり強力にアピールしていただきたいというふうに思っております。

そろそろこの質問を終わりたいと思うんですが、この雑誌が私は全て正しいというふうに思いません。ただ、朝倉市の弱点として出たのは生産労働人口が減少していくと、だから若者が朝倉市に定着しない、もしくは朝倉市から出て行ってしまうというのがやはり朝倉市の弱点というふうに捉えられてるわけですから、私はそういった意味では、そこら辺のところは重点的にやっていただかないといけないというふうに思っております。3世代が暮らす朝倉市、これは私は理念としては物すごくすばらしいものがあるというふうに思っております。ただ、それを具体化して落とし込んでいく政策、産業政策マネジャーが企業誘致をしていただいたりとか、それなりの成果を上げていただいているのも重々承知しております。ただし、アベノミクスではないですけども、二の矢、三の矢を撃っていかないと、私はやはり将来が厳しいのではないかなというふうに考えております。

市長、その二の矢、三の矢のあたり、ここら辺のところはどのようにお考えか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 突然の……、今、いわゆる人口がふえてる地域と減少してる地域の話がございました。これ、私のこれはあくまでも考え方ですけども、人口というのは多いほうがいいんです。ただ、いわゆるベッドタウン、いわゆる仕事は福岡でして、寝るだけの場所で人口がふえるというのは、私は余り好まないといえますか、そういう、朝倉市がなるかどうかは別として、もしなれたとしてもそういうものは余りなるべきじゃないなと思います。やはりその地域に働く場所があって、やっぱりその地域の、まずはその地域で生まれ育った子供たちが地元で働きたいと、地元におりたいと思えば、そういうことができるような環境を整えるということが大事なことだ。そのためにいわゆる、もちろん農業がよければ農家の後継者は1人ぐらいはいてくれるんでしょうけども、農業もこういう今のような状況の中で、ですからやっぱり、そういうためにはやっぱり働き場を確保するための企業誘致が必要であらうし、あわせて、実は特に今年度初めて開催したんですけども、今まではいわゆる市内の事業所に、いわゆる新卒の高校生を雇ってくださいということで、ハローワークの方、私の地元の高校の先生たちと回ってたわけですけども、それとは別にことしから、いわゆるそれぞれの高校の先生たちと市内の企業の人たちといろんな、あれ、何と言ったかな、あれ。（発言する者あり）就職応援会というのをことしから始めました。そういうことをすることによって、今度は企業側から、じゃあどういふ子供

さんが欲しいんだとか、お互いにそこで就職担当の先生方と企業の採用担当の人たちが話すことによって、よりいいマッチングができるんじゃないだろうかということで、ことしからそういうことも始めさせていただきます。そういうことを一つ一つしながら、やはりこの地域のまずは育った人たちがこの地域におれるという形をつくる。その次はやはりよそから来ていただければ、これにこしたことはないわけですけども、そういうことを着実にやりながら、今、「ダイヤモンド」か何か知りませんが、もう勝手なことを書いておりますけど、決してそういうことにならんように努力をしていきたいというふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私も議員として決してこういったことにならないように、やはり頑張っていきたいというふうに考えております。

市長のお考えでは、朝倉市はベッドタウンにはならないんだと、寝床にはならないんだというお考えであるということであれば、やはり交流人口をふやしてやっていくという戦略になるというふうに思っております。ただ、私が再度強調したいのは、福岡市という150万都市というポテンシャル、これがあって、たまさかその近くという非常に地の利があるわけですから、これをやっぱり使わない手はないというふうに考えます。この点につきましては、やはり担当課としても知恵を使っただきまして、この成長のエンジンとなるように、それをつかんでいただきたいというふうに思っております。

以上で2つ目の質問を終わります。

あと時間が済みません、ありませんから、簡単に3つ目の質問をさせていただきます。SNS、ソーシャルネットワークサービスを使えないかという質問でございます。

SNSというのは聞きなれない言葉かもしれませんが、今、はやりのインターネットとかを使いましたツイッターとか、それからフェイスブックとか、そういったものでございます。私は市役所の某課長がフェイスブックのほうで観光の情報を発信してるのをよく見ております。例えば6月19日にNHKの全国放送「ひるブラ」、秋月とおき、水の恵みめぐりというのがありまして、水前寺ノリとか、葛とか、和紙とか、こういったものが紹介されましたというようなのをフェイスブックを通じて見させていただいて、これ多分、市外の方も見られてるんじゃないかなというふうに思っております。

こういった個人でも情報を発信するのであれば、市役所として公として情報を発信したらどうかというふうに考えております。少なくとも市役所として難しいのであれば、部署、商工観光課として情報発信をすべきではないかなというふうにお考えです。先ほど情報発信を一生懸命やってるということでありましたが、ホームページを見てもらうというのは、もうこれは1つ前の情報発信のやり方であって、ツイッターとかフェイスブックとかでアカウントをとるべきだというふうに考えますが、担当課、もしくは市役所としていかがお考えか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 時間ございませんので、総体的な話として私のほうからさせていただきます。

おっしゃるとおり分野を限定してSNS使うというのは有効活用だと私たちも思っております。例えば観光のように観光情報に特化するのには有効だと思います。ただし、この場合も市外の方にターゲットを絞る必要がございますので、その部分が課題です。SNSというのは会話ですから、ただ単に情報を発信するだけではなかなか飛びついていただけません。おもしろいのは会話として成り立つものですから、そこが1つの課題だと思っております。

例えば、もう1つの課題として防災ということにテーマを置きますと、防災というのはもう全ての、例えば市民なら市民全部に情報を伝達する必要がありますので、これはやはり市内の登録者は約2,200人と聞いてますので、これはちょっと使えないものです。ですから、そういうふうに変化して使うということで検討していけばおもしろいものができるんじゃないかと思っております。

毎日、この情報発信のツールが毎年のように新しいもの出てきますし、新しいものが衰退していきます。ここの見きわめが大変ですので、1回、行政として取り組むなら、先々のことまで含めて、費用対効果を含めて検討する必要があると思っておりますので、今後もいろんなチャンネルが出てくると思っておりますので、それを総体的なこととして検証していく必要があるというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 今、部長のほうからちょうど防災という言葉が出ましたので、私、去年の豪雨災害のときにフェイスブックを通じまして杷木の土砂崩れがこんなふうになってるとか、それから小石原川の氾濫が今、こんな、ここまで水位が来るとか、そういうのを見て、やはりこんなになってるって、フェイスブックって何て便利なんだろうと、そういった意味で、確かにまだフェイスブックの登録者というのは市内では少ないと思うんですけども、用途を限定をすれば非常に使い勝手のいいツールではないかなというふうに思っております。双方向というのが非常にある意味、強みになるんじゃないかなというふうに思っております。公としてやる以上は、やはり信頼性の置けるもの、それから成り済ましかありますので、非常に難しい部分はあると思っておりますけれども、ぜひとも御検討いただきまして、使えるということであれば取り入れていただきたいというふうに思っております。

時間になりました、以上で私の質問を終わらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時59分休憩